

# マンションから墓場まで

～歩く漫画キャラクター～



社長プロフィール

吉川 健一（よしかわ・けんいち 通称：ヨッシー）

中野区在勤。株式会社ガリバーの代表取締役。

アパレル会社社員として働く。その後、バブルが少々はじけ、30代前半で不動産会社を始める。

平成8年創立。マンションをデザインする等、社長自ら数々の仕事を手がける。

## ●● 他と違うもの！汗水たらすマンション社長 ●●

不動産会社の社長として働くヨッシーさん。荻窪のオフィスで会社についての説明をしていただいた後、ヨッシーさんの手掛ける物件の確認に"みつちやく"した。

まず、新中野にある新築の物件の視察に向かった。ヨッシーさん自身がデザインしたという新築の一軒家は、土地は少々狭くても、家族がゆったりと暮らせる工夫がたくさん。夕食→入浴→就寝の流れがスムーズにいく配置などは、「もし自分の家族で住むならどんな家がよいか」を考えることから思いつく。

次に、方南町にある昭和40年代マンションをリノベーションした物件を見に行った。一見よくある団地のマンション。しかし、扉を開いた瞬間「ここはどこでもドア!？」というくらいの別世界が広がっていた。まず、浴室とトイレがガラス張り！あとはキッチンと物置のスペースがあるのみ。部屋のあちこちらをチェックして業者に連絡している合間に、「少し値段が



張っても、良い物を作れば必ず欲しが  
る人がある。他と同じじゃつまらない。  
世界に一つのものをつくるんだ」とい  
う話をしていたのが印象的だ。

この移動中、常に早歩きで食事もし急いでいたヨッシーさん。当日は真夏の晴天天下だったので、シャツに汗を垂らしながら歩いていた。時間を守るのが大変で、いつも忙しいというのが伝わってきた。



## ●● ご先祖様に、感謝。 ●●

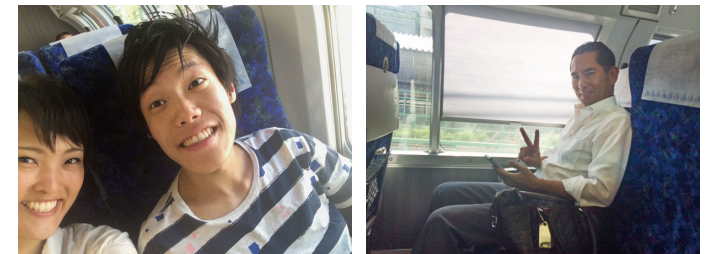


住宅の視察が終わった後、すぐ電車に乗り込み鎌倉へ向かった。「このときはいつもグリーン車に乗るんだ」と、私たちの分までグリーン券を買ってくれた。鎌倉には、ヨッシーさんのご先祖様が眠っているお墓がある。ヨッシーさんは月に一度、そのお墓参りに行くという。

鎌倉に到着し、いつもの花屋さんと豪華な花を購入する。お墓へ向かう途中で「お世話になった社長さんが毎月お墓参りをしているって聞いて、そこでふと、僕もしなきゃと思ったんだ」と語ってくれた。

お墓参りが終わり、夕暮れの日差しの中、私たちは「どうしてこんなに良くてくれるんですか？」と聞いてみた。すると、「僕も沢山の人の助けられてここまでやってこれた。でも、その助けてくれた人たちはもうすごい人になってしまって、僕からの恩返しなんてとても小さなこと。だから、次の世代の助けになる事が、僕の恩返しなんだ」そう語るヨッシーさんの心の奥には、いつも「感謝」の二文字がある。

不動産の仕事を始めたのは借金を返済する為。うまくいかない時は、多くの人の助けを借りた。そんな経験から、周りに「生かされている事への感謝」という感覚があるのかもしれない。



## ●● 髪形、服装、そして笑顔 ●●

「ヨッシーさんて最初、ちょっと話しかけづらかった」ヨッシーさんがよく言われるセリフだ。不動産なので真面目に見られたいという気持ちから、普段はかっちりスーツを着る事が多い。しかしそれが逆に、近づきにくい印象も持たせてしまう。どっちを取るべきか…真剣に悩むヨッシーさんは、はたから見ていると少し可笑しい。



ヨッシーさんは昔、笑顔が作れなかったという。サービス業でこれではダメだと気づき、笑顔の特訓をはじめると、人間関係だけでなく会社の営業成績にもめきめきと効果が出始めた。さらには、サプリメントのCM出演に起用されるまでの笑顔に！まるで、苦勞を積み重ねて成功を手にする、サラリーマン漫画を読んでいるようだ。

今日もヨッシーさんは、  
中野のどこかで汗をかいている！

<取材：村上夕姫（早稲田大学）、Eddy Chan（明治大学）／撮影：五木田勉>



## 女性ならではの感性で 男性視点のビジネスが逃がしてきたニーズに応える！



社長プロフィール

大橋 和代（おおはし・かずよ 通称：キャサリン）

中野区在住。スタイル&フード株式会社（中野区）代表取締役。アパレルメーカー、商業施設デベロッパーなどを経て、2001年に創業・スタイル&パートナーズ株式会社。食と住に関わる新規事業・サービス・商品の開発とその運営。2012年中野にトーキョーワッフル（焼菓子店）を開業。2014年スタイル&フード（株）設立（中野区）。

### ●● WASEDAでもWaffle ●●

キャサリンさんは中央区・日本橋で企業の新規事業等に関するコンサルティング会社を経営する女社長。そんなキャサリンさんが2012年、地元・中野でオープンさせたのがワッフル専門店「トーキョーワッフル」だ。

トーキョーワッフルは昨年の中野の逸品グランプリ・お土産部門で準グランプリに輝いている。お店に入ってまず驚かされたのが、その値段の手ごろさだ。子供から大人まで誰もが買いに来られるようにと、この値段での提供を決めたそう。

店頭には甘いワッフルだけでなく食事用のワッフルも並んでいる。そんな商品展開の背景には、働く女性を支援したいという想いがある。キャサリンさん自身も、バ



リバリと働く女性のひとりだ。忙しい時こそ、食生活には気を付けたい。そんな想いから、ワッフルはきちんと栄養を摂取できる朝ごはんとしての顔も持つよう、素材にこだわっている。その製作を指揮したのは、キャサリンさんの実妹でフードコーディネーターとしての資格を持つ須田明子さん。

中野店での焼き立てワッフル以外に、トーキョーワッフルは、早稲田大学学内にある「Uni. Shop&Cafe 125」（新宿区）で、大学オリジナルパッケージに包まれ、ワセダワッフルとして販売されている。その手軽さから大学を訪れた人のお土産として人気となっており、早稲田大学以外でも、約30校の大学でも販売されている。キャサリンさんのネットワークから広がる、トーキョーワッフルの輪。これからもその輪はどんどん広がっていきそう。



写真：ワセダワッフル



左：高級冷凍食品の新規事業の打合せ 右上：電車の中 右下：トーキョーワッフルの新規出店先の打合せ

### ●● エネルギッシュなChaos(カオス) ●●

“みつちやく”第一日。この日に同行させていただいた打合せは3つ。それぞれ異なる事業の打合せで、ひとつの打合せが終わるとすぐに次の準備をしていた姿が印象的だった。

キャサリンさんが手掛ける事業は多岐にわたるが、共通していることは、常に女性ならではの視点や感性を活かしてビジネスにアプローチすること。トーキョーワッフルの他に、起業家たちが集まる三井不動産株式会社のワークスペース「Clipニホンバシ」の運営、高級冷凍食品の新規事業など…。どのような

想いがある、手広く事業を展開しているのだろうか。

会社を設立する以前、キャサリンさんは男性視点のビジネスに身を置く中、女性消費者のニーズとのギャップに気が付いたそう。それに応えることはできないのか？女性に限らずとも、既存のビジネスが取り逃がしてきた需要があるのではないかと。そんな疑問に対する答えが、キャサリンさんの手掛ける事業の「スタイル」なのかもしれない。

### ●● 見つけてしまったTory Burch ●●

“みつちやく”の日のキャサリンさんは、Tory Burchというブランドの小物を多く身に着けていらした。左の写真でも、パンプスをお召しになっている（目が早い女子大生、憧れのブランドはしっかりチェックしている）。

このブランドの設立者でありデザイナーのM. Tory Burchは、デザイナー業の傍らTory Burch Foundationを設立しアメリカ国内外の女性の起業を資金面で支援しているそう。キャサリンさん、同じ女性起業家として、そして同世代の女性として、女性起業家を支援する彼女の活動に共感し、愛用しているのだろうか…？（※あくまで筆者の妄想です）



<取材: 小西翔子（早稲田大学）、木村仁美（明治大学）／撮影: 五木田勉>